

ミュージアム・パスポート会員募集中

ふくやま美術館友の会では、美術館をもっと楽しみたい方のために、ミュージアム・パスポート会員を募集しています。当美術館及びふくやま書道美術館所蔵品展がフリーパスになるほか、催し物案内の送付、カフェでの割引など、さらに美術館を身近に楽しんでいただける特典がいっぱいです。



年会費 一般会員 3,000円 学生会員 1,500円
特別会員A 20,000円 特別会員B 10,000円

特典 所蔵品展・特別展無料観覧（※会員の種類で無料回数が異なります。[例]一般会員は特別展が年4回無料）、美術館に関する情報提供、当館カフェの割引、提携美術館・施設での入館料の割引など。

お問い合わせ ふくやま美術館友の会事務局
TEL 084-932-2345

インフォメーション

◎ふくやま美術館（JR福山駅福山城口（北口）から西へ400m）
〒720-0067 広島県福山市西町二丁目4番3号
TEL 084-932-2345 FAX 084-932-2347
https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-museum/
X・Instagram: @fukuyama_bi



駐車場 68台（特別展、所蔵品展をご観覧のお客様は1時間無料）
休館日 月曜日（祝休日の場合は開館、その翌日は休館）、年末年始
開館時間 9:30～17:00 ※特別展開催中の場合、夜間開館あり

観覧料 所蔵品展：一般310円（250円）※（ ）内は有料20名以上の団体料金
※特別展の観覧料は別に定めます。
※特別展・所蔵品展ともに高校生以下無料。

◎ふくやま書道美術館（JR福山駅福山城口（北口）から西へ400m）
〒720-0067 広島県福山市西町二丁目4番3号
TEL 084-925-9222 FAX 084-925-9223
https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-syodo/
X: @fukuyama_syo Instagram: @fukuyama_shodo



駐車場 68台（所蔵品展をご観覧のお客様は1時間無料）
休館日 月曜日（祝休日の場合開館、その翌日は休館）、年末年始
開館時間 9:30～17:00

観覧料 所蔵品展：一般150円（120円）※（ ）内は有料20名以上の団体料金
※高校生以下無料



所蔵品展

春季所蔵品展

ベストセレクションー「今」見るふくやまの名品

4月3日（木）ー6月29日（日）

当館コレクションの各ジャンルから、学芸員が選ぶ「名品」をご紹介します。誰もがうなずく著名な作家の優れた作品に加え、常日頃、作品と過ごす学芸員だからこそお伝えできる、さまざまな魅力を取り上げます。また、第3室では、小松安弘コレクションの名刀を展観します。



国宝《太刀 銘筑州住左（号江書左文字）》南北朝時代（14世紀）（小松安弘コレクション）

夏季所蔵品展

ブルーの世界

7月4日（金）ー9月23日（火・祝）

私たちの心を引きつけ、さまざまな感情を呼び起こす不思議な色、ブルー。開放感や安らぎ、時には憂鬱や孤独を象徴する色でもあります。多様な表情を持つブルーのグラデーションをお楽しみください。



河井寛次郎《海鼠瓜壺》1930年頃

秋季所蔵品展

没後50年 金島桂華ー自然へのまなざし

9月27日（土）ー12月14日（日）

金島桂華（1892ー1974）は福山市神辺町湯野に生まれ、14歳の時大阪に出て日本画を学びはじめ、19歳で京都の竹内栖鳳の竹杖会に入門しました。26歳の時文展に初入選して以来、日展を主たる活動の場とし、ひたすら花や鳥など自然の中の生命の美しさを正攻法で描き続けています。本展は2024年に金島家より寄贈を受けた41点の作品と美術資料を中心に、桂華の画業を紹介します。



金島桂華《微風牡丹》20世紀

冬季所蔵品展

何もないと思いきや……

第3室：特集 高橋秀新収蔵品展

2026年

1月2日（金）ー3月29日（日）

所蔵品から、一見すると「何もない」ように思える作品が一堂に会します。「ただ真っ白なだけの作品に見えるけど、実は……」など、作品には仕掛けがたくさんあります。画像と実物の違いを感じること、作品の面白さを見つけていただくことを目指します。また、第3室では、高橋秀（1930ー）の特集展示を行い、昨年寄贈された作品を中心にをご紹介します。

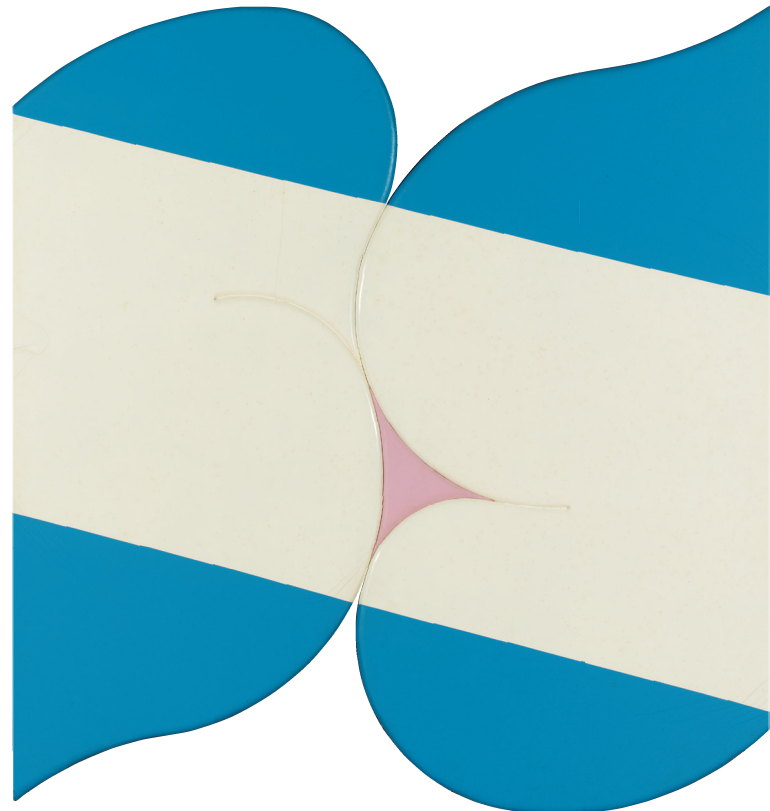


エンリコ・カステッラーニ
《白い表面 n.11》1987年
©SIAE, Roma & JASPAR, Tokyo, 2025 G3803

2025 ふくやま美術館

FUKUYAMA MUSEUM OF ART

展覧会カレンダー



高橋秀《La Vergine Annunziata》1970年 ふくやま美術館

EXHIBITION SCHEDULE

2025.4 ▶ 2026.3



FUKUYAMA MUSEUM OF ART

ふくやま美術館

特別展

第20回世界バラ会議福山大会記念事業

Rose イメージの系譜

ルドゥーテからシャガール、北斎、芦雪、『ベルサイユのばら』まで

4月5日(土)ー6月8日(日)

前期:5月6日(火・休)まで 後期:5月8日(木)から

休 館 日＝月曜日 ※4月28日(月)、5月5日(月・祝)、19日(月)は開館、5月7日(水)は休館
開館時間＝9:30～17:00 ※5月18日(日)は21:00まで、6月6日(金)、7日(土)は19:00まで開館
観 覧 料＝一般1,500円(1,200円)、高校生以下無料 ※()内は前売りまたは有料20名以上の団体料金

近世以降の西洋と日本における様々な芸術に表現されてきたバラのイメージをたどる、その質と幅広さにおいて過去に例を見ない、大規模なバラの美術展です。ルドゥーテの希少な肉筆画やシャガールといった西洋美術はもちろん、北斎や長沢芦雪など江戸時代の日本の作品に表現されたバラ、「ベルサイユのばら」の貴重な原画、本展のために現代作家が制作した作品まで、多様な作品を通して、数百年にわたるバラのイメージを探ります。



福田美蘭《ダイヤル・ショッピング》1989年 作家蔵



葛飾北斎《黄鳥 長春》1834年頃
島根県立美術館 〔前期展示〕



オーギュスト・ルノワール《帽子の娘》1910年
SOMPO美術館 (損保ジャパンより寄託)

特別展

アートであそぼう
ブルーノ・ムナリー展

7月12日(土)ー9月15日(月・祝)

休 館 日＝月曜日 ※7月21日(月・祝)、8月11日(月・祝)、9月15日(月・祝)は開館、7月22日(火)は休館
開館時間＝9:30～17:00 ※8月9日(土)、10日(日)は19:00まで開館
観 覧 料＝一般1,500円(1,200円)、高校生以下無料 ※()内は前売りまたは有料20名以上の団体料金

イタリア・ミラノで生まれたブルーノ・ムナリー(1907ー1998)は、日本では絵本で知られるアーティスト、かつデザイナーですが、その作品は多岐にわたります。本展では、そうしたムナリーのさまざまな仕事を「絵画・グラフィック」、「彫刻・オブジェ」、「プロダクト」、「遊具・絵本」、「ワークショップ」と5つのテーマで展観します。見て、さわって、感じて、大人も子どももアートと楽しくあそぶ心をひろく、ムナリーの世界をのぞいてみませんか。



ブルーノ・ムナリー『ムナリーのABC』1960年/1982年
フィロメルブックス、日本ブルーノ・ムナリー協会蔵
©Bruno Munari. All rights reserved to
Maurizio Corraini s.r.l.



ブルーノ・ムナリー『小ざるのジジ』1950年/1999、2007年
日本ブルーノ・ムナリー協会蔵

特別展

生誕140周年
藤田嗣治 7つの情熱

2026年1月24日(土)ー3月29日(日)

休 館 日＝月曜日 ※2月23日(月・祝)は開館、2月24日(火)は休館
開館時間＝9:30～17:00
観 覧 料＝一般1,500円(1,200円) 高校生以下無料 ※()内は前売りまたは有料20名以上の団体料金

藤田嗣治(レオナール・フジタ、1886ー1968)は、西洋と東洋、それぞれから受けた影響を組み合わせ、独自のスタイルを確立した画家です。本展では、フランスの藤田研究の第一人者であるシルヴィー・ビュイッソン氏監修のもと、フランス各地に所蔵されている作品を中心に、藤田との関わりが深い日本人画家の作品を交えながら紹介します。自画像や女性像、宗教画など、彼の創作の源泉ともいえる7つの情熱に沿って藤田芸術の秘密を探ります。



藤田嗣治《おやすみなさい、雪中の猫といっしょの少女》1952年 個人蔵
© Fondation Fougita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2025 G3803

特別展

東京藝術大学大学美術館名品展
美の殿堂への招待

10月4日(土)ー12月7日(日)

前期:11月3日(月・祝)まで 後期:11月5日(水)から

休 館 日＝月曜日
※10月13日(月・祝)、11月3日(月・祝)、24日(月・休)は開館、10月14日(火)、11月4日(火)、25日(火)は休館
開館時間＝9:30～17:00
観 覧 料＝一般1,800円(1,440円) 高校生以下無料 ※()内は前売りまたは有料20名以上の団体料金

東京藝術大学は、前身の東京美術学校(1889年開校)時代から美術教育のための美術品の収集に力を注いできました。1999年には東京藝術大学大学美術館が開館しました。本展は、その大学美術館が所蔵する膨大なコレクションの中から、近代の美術作品に焦点を絞り、高橋由一《鮭》、狩野芳崖《悲母観音》(前期)など重要文化財をはじめ、日本画、洋画、彫刻、工芸など各分野からあわせて約120点を紹介します。



左：高橋由一《鮭》1877年頃 東京藝術大学蔵
右：黒田清輝《婦人像(厨房)》1892年東京藝術大学蔵

教育普及事業

第55回世界児童画展

8月2日(土)ー8月11日(月・祝)

世界の児童画と、国内・県内の児童・生徒の優秀作品を展示します。



第17回ふくやま子ども「生きる」美術展

2026年1月2日(金)
ー1月12日(月・祝)

児童・生徒のそれぞれの「生きる」をテーマとして個性豊かに描いたみずみずしい作品の中から、受賞作品を展示します。



スクール・プログラム《小中学生対象プログラム》



観察力・コミュニケーション力を高める「対話型」や知識・教養を深める「ガイド形式」の鑑賞プログラムなど、ご希望に応じてご提案します。

お問い合わせ：ふくやま美術館 TEL.084-932-2345
(火～日曜日の8:30～17:00)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2026年1月	2月	3月
4/5～		6/8	7/12～		9/15	10/4～	12/7		1/2～1/12	1/24～	3/29
特別展「Rose イメージの系譜 ルドゥーテからシャガール、北斎、芦雪、『ベルサイユのばら』まで」			特別展「アートであそぼうブルーノ・ムナリー展」			特別展「東京藝術大学大学美術館名品展 美の殿堂への招待」			第17回ふくやま子ども「生きる」美術展	特別展「生誕140周年 藤田嗣治 7つの情熱」	
4/3～		6/29	7/4～		9/23	9/27～	12/14		1/2～		3/29
春季所蔵品展「ベストセレクションー「今」見るふくやまの名品」			夏季所蔵品展「ブルーの世界」			秋季所蔵品展「没後50年 金島桂華ー自然へのまなざし」			冬季所蔵品展「何もないと思いきや…… 第3室・特集 高橋秀新収蔵品展」		